

第2章 いじめの未然防止

2 「分かる授業」を通して（高等学校編）～対話的な学び、自己有用感を促す授業づくり～

1 高等学校での学びといじめ・問題行動

高等学校では、小・中学校に比べて学習内容が高度化し、複雑な思考を要することから、理解の速度や程度に差が生じ、学業不振に陥る生徒が増える傾向にある。学業不振がストレスとなり、学校生活全体への意欲が低下したり、問題行動につながったりすることは少なくない。

2 「分かる授業」といじめ防止・生徒指導

いじめの未然防止には生徒の自己有用感の向上が重要である。そして、その向上を図るには、教員業務の中核を占める授業において「主体的な学び・対話的な学び」の要素を取り入れること、「分かる授業」を行うことが大切である。今後の授業改善において、次の3点に留意したい。

(1) 授業規律を共有する

授業を行う際に、教員で共通理解された授業規律があるだろうか。例えば、授業を妨害する生徒への対応はどうだろう。集団で取り組む学習の効果を高めるには規律は不可欠であり、教員間で「温度差」なく、一定の指導基準をもって指導することが大切である。なお、規律に反した生徒への指導については、次の点に留意する。

- ① 生徒の背景理解に気を配り、どうしていくことが望ましいか考えることを促す。
- ② 集団の中で注意する際は、アフターフォローをする。
- ③ 根気強く、粘り強く指導する。

(2) 「グループ」ではなく「チーム」を経験させる

今の生徒は「常につながりたい」との意識が強く、このことがソーシャル・ネットワーク・サービス（以下、SNS）の流行につながっている。SNSでのやりとりは顔が見えず、軽薄な短文になりがちなので、配慮の足りない言葉で傷つけることも多い。一方、自己有用感の低さ等から、コミュニケーションを積極的にとろうとしない生徒がいる。学校ではそのような状況を踏まえ、目的をもった活動を通じて「グループ」から「チーム」へと変化する機会として授業づくりを行うことが大切であり、ペア・ワークやグループ・ワーク等の対話的な言語活動を充実させなければならない。

(3) 全員が参加できる授業

ア 主体的に学ぶ個人（アクティブラーナー）

生徒一人一人が授業のスタートとゴールを理解し、見通しももつこと。協働を仕組むとともに個々に考え、まとめる時間を確保すること。授業での学びを振り返る場を設定すること。

ポイント 振り返りの場を設定することで、何を理解できたかという点だけでなく、どう変わることができたか、周囲にどのような影響を与えたか、もしくは与えられたかを確認することができる。次の授業への前向きな姿勢を作ると共に自己有用感を高めることができる。

イ 対話的に学ぶ集団

ペア・ワークやグループ・ワークにより、自己の意見を表明し、他者の意見を尊重し、多様性にあふれた集団で学ぶことを心地よく感じられる雰囲気醸成すること。

ポイント 自己の意見を表明することで、ペア・ワークやグループ・ワークが円滑に進んだ経験や、他者によい影響を与えられた経験を積み重ねることによって、自己有用感を高めることができる。

3 いじめ防止を踏まえた「分かる授業」の展開例

	指導上の留意点
導入	<p>◎前時の振り返りの際に、基本的知識や重要ポイントにつまずきがないか確認する。 【導入時における発問の留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問う内容は分かりやすく明確であること。(ノートから必ず答えが見つかるなど) ・不安そうな表情の生徒がいれば、ペア・ワークで答えを確認させてもよい。 ・発表内容について認めるとともに、本時の学びにつなげられるとよい。 <p>◎本時の目標を明確に示すとともに、興味・関心を高め、生徒自らが「問い」を設定したくなる工夫を用意する。 例：本時を象徴するようなキーワードを示す。 ：本時の内容に関連した資料を提示する。</p>
展開	<p>◎主体的・対話的に学ぶ前提として、答えを出したくなる「問い」を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人では答えを出せない程度の難易度が望ましい。 ・多様な答えが許容される問いとなっていること。 <p>◎「問い(課題)」に対する個人→集団の活動を仕組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは一人で考える時間を確保する。(主体的に学ぶ個人) ・ペア・ワークやグループ・ワークで知識構成型ジグソー法を設定する。次の例のような工夫をすることで、話し合う必然性を作り出すこともできる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例：絵や写真・グラフ・英文資料など、複数の資料を統合して答えにたどりつくように、グループ内の個々に異なる資料を分配し、「自分だけがそのことを知っている」状況を作り出し、協議が必要な場を演出する。</p> </div> <p>◎机間指導をする中で、生徒と教師の対話的活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中できず、イライラしている雰囲気のある個人や集団へ適切な支援(声かけ)を行う。 <p>◎多様な考察や意見を教室全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が発表内容を真摯に聞き、理解しようとしているかどうか観察する。 ・たとえ唯一解を間違えたとしてもそのことが許され、間違いから学びが深められるといった雰囲気をつくり上げる。 ・発表を聞いた感想や意見を生徒に出させ、肯定的に評価する。 <p>◎生徒の多様な考察や意見を柔軟に生かしながら、助言・説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が持ち寄った多様な考察や意見を尊重しつつ、電子黒板などICTを活用して視覚的に理解を促したり、要点を整理して示したりすることを心がける。
まとめ	<p>◎再度、問いに対する答えを一人で考えさせ、学びを振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートで次のような記述項目を設定して、本時の内容が理解できたかを確認するとともに、どの生徒の考え方が参考になったか等もあわせて振り返らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例：「今日の学びで、何が重要なポイントだったかを書いてください。」 ：「今日の学びで、自分の変化に影響を与えた考え方を教えてください。」 ：「グループの人から、『今日のあなたの活躍』を書いてもらってください。」</p> </div>

○授業規律や対話的な言語活動を前提とした「分かる授業」によって、生徒の自己有用感が高まるとともに、他者を尊重する集団や雰囲気が生まれる。

*参考文献

『アクティブラーニングを活かした生徒指導』 関田一彦・渡辺正雄編著 学事出版

『教育と医学』平成28年10月1日発行 慶応義塾大学出版会

『月刊生徒指導』2014年6月1日発行 学事出版

『授業改善のためのセルフチェックシート』千葉県教育庁南房総教育事務所